

ドキュメンタリー 矯正治療

ひるま矯正歯科
院長 晝間康明



いよいよ最終回、保定終了から矯正治療完了について報告します。通常、保定終了後は、メンテナンスプログラム(デンタルドック)で虫歯歯周病予防を行ないます。

保定期間の終了と完了

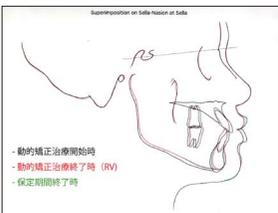
保定期間の終了時に再度矯正歯科の検査、虫歯と歯周病のリスク検査を行ないます。保定開始時より噛み合わせは安定しているか、コントロールされた虫歯や歯周病のリスクが低いままでも現在も維持できているか、固定式の保定装置の周りに新たなう蝕や歯周病の進行はないかなどを調べます。そして、患者さんとカウンセリングを行い、虫歯と歯周病のリスクを認めた場合に

保定期間終了時の矯正歯科の検査

X線写真(セファロ)を撮影しトレースしたものを重ね合わせ、初診時、動的治療終了時と比較しどのような変化があり安定しているかを確認します。

◆セファロの重ね合わせ

黒:初診/赤:リムーブ時/緑:保定期間終了時



◆正貌変化

初診時 → 動的治療終了時 → 保定期間終了時



◆側貌変化

初診時 → 動的治療終了時 → 保定期間終了時



◆口腔内変化 初診時 → 動的治療終了時 → 保定期間終了時



◆虫歯と歯周病のリスク検査

カリエスリスクレーダーチャート/ 歯周病リスクレーダーチャート



◆矯正治療完了時の染め出し写真



保定期間終了時の考察

セファロの重ね合わせを見ると、動的治療終了時を示す赤いラインと保定期間終了時を示す緑色のラインに大きなズレがない事から、動的治療終了から保定期間終了までの間に後退させた前歯や口元の突出感の後戻りを起こすような予想外の変化は起きておらず安定している状態であると考えられました。

口腔内では前回のドキュメンタリー矯正治療で考察したように、ディस्कルーションしていた大白歯は挺出し、より噛みやすくなるような変化を認めました。また、大白歯だけでなく上下の歯が全体的にしっかりと噛めるような変化も認めます。上の左右3番の遠心部分のスペースは保定期間中に現われてしまったものの、その後はスペースが広がる事はなく安定していました。むし歯と歯周病のリスクを支

完了後のメンテナンス

すカリエスリスクレーダーチャート、歯周病リスクレーダーチャートともに動的治療終了時(点線)よりリスクは減少し、保定期間を通じてむし歯と歯周病によりなりにくい口腔内環境へ変化してきた事が確認できました。

保定期間終了時検査の後は、検査結果に基づきリスクがあればブラッシング指導、歯石除去、P M T Cなどを行なっていく予定です。そして、リスクが改善されて矯正歯科治療は完了となります。

しかし、歯は矯正装置を装着していなくても口腔内の力のバランスが変化すれば自然に動くので、矯正治療が完了しても噛み合わせは変化する可能性があります。

その主な原因は、虫歯による歯の喪失、歯周病による歯を支

える骨(歯槽骨)の喪失により歯が傾いたり、噛む力のバランスが変化してグラグラしてくるからです。したがって、矯正治療で綺麗になった歯と歯並びを守るために、完了後も虫歯と歯周病予防のメンテナンスは必要です。

そこで、ひるま矯正歯科では完了後のメンテナンスを一般の歯科医院に依頼するか、当院でメンテナンスのみ継続するかを患者さんを選択していただき、当院を希望された場合は生涯にわたり患者さんの口腔内の健康を維持するメンテナンスを継続していきます。

せっかく矯正治療をしたのにメンテナンスに通わなければならぬのかと考えるかもしれません。矯正治療後のメンテナンスは矯正治療を始める前の歯並びが悪い状態に比べて、1回のメンテナンスにかける時間を短くできたり、メンテナンスのために2〜3か月に1度通わなければならない所を3〜12か月に1度通

えば良くなることで患者さんの負担が少なくなるのです。

本症例は当院のスタッフ(歯科衛生士)でしたが、当院を退職したためメンテナンスは他院で行なう事となり、完了の検査の際に認めた上下顎固定式保定装置周囲に付着した歯石や歯の汚れ(バイオフィルム)をスケリーニングやP M T Cにより除去し、僅かなリスクを改善した状態で矯正治療は完了としました。

以上、矯正治療の完了を持って「ドキュメンタリー矯正治療」を完了致します。長い間の応援をありがとうございました。ごさいました。

今後多くの方に矯正治療の素晴らしさを正しく理解していただくための新たな企画を計画中です。皆さんお楽しみに！

